

原発事故を想定して

原子力防災訓練

地震によって九州電力川内原子力発電所で重大事故が発生したことを想定した原子力防災訓練が、2月3日、鹿児島県と原発から30^キ圏にある周辺自治体主催行われ、圏内に南部地区が該当する本町でも実施されました。

本町では住民や消防団、役場関係者などが参加。長島が孤立したことを想定し、鷹巣地区では、海上自衛隊ヘリでの急患搬送訓練のほか、宮ノ浦港では、海上自衛隊輸送艇による物資搬送訓練が行われました。このほか、原発に最も近い田尻集落では、田尻自主防災組織が自主的に訓練を実施し、住民や消防団が一体となって、災害時にどのような避難方法をとるか確認をしました。



↑避難所へ集まる田尻自主防災組織

平成32年度の完成をめざして 長島町総合運動公園整備工事安全祈願祭

2月14日、長島町総合運動公園（多目的運動広場）整備工事の安全祈願祭が行われました。

町民の健康推進やふれあいの場として整備されるこの総合運動公園は、総事業費約14億円で、運動施設ゾーン約36,000㎡、多目的運動広場ゾーン約20,000㎡、運動施設駐車場約3,000㎡を計画しており、本年度は約1億1,600万円を投じて、多目的運動広場ゾーンの敷地造成工事などを行います。

この日は、川添町長はじめ、児島議長、飯田満穂自治公民館連絡協議会長、浜健男体育協会会長、工事関係者らが集まり、工事の安全を祈願しました。



↑工事の安全祈願を行う川添町長

サッカーを通じて

三県架橋構想を推進

サッカー交流で、長崎・熊本・鹿児島県の三県がパスをつなぎ合い島原・天草・長島架橋や九州西岸軸構想の推進をアピールする「三県少年サッカー大会」が2月24日から2日間、阿久根市の阿久根市総合運動公園陸上競技場で行われました。

この大会には、熊本県・長崎県から各2チーム、鹿児島県からは、出水地区内のチームに所属する選手たちの混成4チームが参加し、本町からも5人がチームに加わりました。

三反園訓練児島県知事や各首長が参加して行われた開会式のあと、選手たちは交流試合に臨み、元気いっぱいプレーに観客席からは歓声飛び交っていました。



↑元気にプレーする選手たち

新たな観光拠点建設へ 「大陸ホテルながしま」起工式

2月26日、「サンセット長島」に代わる新たな大型宿泊施設「大陸ホテルながしま」の起工式が行われました。

新たなホテルの建設にあたり、本町と株式会社トス（大楽浩会長）と株式会社三共建設（中島竜作社長）の共同企業体「トス・三共」Vホテル建設プロジェクト（大楽浩代表）」による立地協定書を昨年の4月に結んでいました。

神事終了後、大楽代表は「一日も早く、この土地に馴染み、長島町民となり、皆さんと一体となって、長島町をPRし、新たな観光拠点を作りあげたい」とあいさつ。川添町長は「町の施設という思いで、この新たなホテルの運営を全面的に協力していきたい」と期待のあいさつを行いました。



↑地鎮の儀を行う大楽代表と中島社長